

2021 年度事業報告書

2021 年 1 月 1 日～12 月 31 日



「浜中町 森里海をつなぐ シマフクロウ地球の森づくり」

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

2021年度 事業報告

「海から振り返り、豊かな山にシマフクロウが住んでいる。北海道の各地において、シマフクロウの存在は豊かな森里海の繋がりを知るバロメーターになってほしい。」(会報 2021年8月号ふくろう谷通信より) この具体的実現に向けて、2021年度も基盤となるシマフクロウの保護・保全事業を進め、その成果や課題を環境教育や講演、会報や協働イベント、SNS等を通じて地域や社会に還元し、活動への理解・関心・支援の輪を広げました。

定款の事業名	事業者	事業名	写真	事業内容	時期	人数
シマフクロウの保護・保全活動及び支援する事業	自団体	給餌のモニタリング		<p>釧路総合振興局管内に生息するシマフクロウの1つがいが利用する給餌池の給餌のモニタリングを通年実施し以下の事項を確認しました。</p> <p>3年前に巣立ち分散した個体が既存つがいの繁殖期に舞い戻り約7日間給餌池を利用しました。</p> <p>既存つがいは、繁殖行動は確認できましたが結果的に繁殖失敗に終わり、つがいだけの給餌量や給餌場における行動、その他鳥類の利用状況を記録しました。給餌池への飛来頻度と捕食量には相関関係がなく、季節によって給餌池以外での捕食が増加することを設置した体重計の測定で確認しました。</p>	通年	1

//	自団体	繁殖確認調査		<p>釧路総合振興局管内の3つがいの繁殖確認調査を実施した結果、1つがいが産卵しましたが孵化には至らなかったことが確認されました。</p>	4-5月	1
//	自団体	補助給餌		<p>日中のワシ等の捕食防止対策を実施継続した結果、年間給餌量が未対策の年度と比較し約50%削減できました。当団体が募集するおさかな寄付で活魚を3回110kg購入し、1つがいと単独個体が利用したことを確認しました。</p> <p>給餌池に供給している井戸水は、昨年度に続きさらに濁水寸前となる頻度が増加し、12月には排水量不足で排水ポンプが途中で凍結し、井戸内のポンプが外れる初の事態になりました。</p>	通年	3
//	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道 ・浜中町 ・散布漁協 ・浜中漁協 ・森林組合 ・散布小学校 ・専門家 	<p>生息環境の保全</p> <p>「浜中町 森里海をつなぐ シマフクロウ地球の森」づくり</p>		<p>基幹産業となる漁業や地域の防災、生物多様性を支える地域の水源域に分布する道有林の混交林化を進める森づくりの協定を北海道、浜中町、町内2漁協、当NPOで3月に締結しました。</p>	4-12月	60

	<ul style="list-style-type: none"> ・自団体 			<p>森づくりの専門家の指導のもと生態学的混播混植法にて、協定地 0.2ha の毎木調査、馬による地拵え・間伐材除去、防鹿柵設置、植栽・計測、植栽後のモニタリングを実施しました。植栽には集水域に関する河口域に暮す漁協婦人部や小学生全学年が参画し、在来種の苗作りにも取り組みました。</p>		
//	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農家 ・林業家 ・浜中中学校 ・地域住民 ・専門家 ・自団体 	<p>生息環境の保全 「シマフクロウの道再生プロジェクト WAKKA」</p>		<p>酪農地帯の上流域の川沿いの失われた河畔林を再生し、多様な生物が暮らせる環境を再生と共に持続可能な酪農業に貢献する水の循環を再生する民間事業を当団体と酪農家、林業の連携により一昨春より開始しました。今年度は防鹿柵設置、植栽・を、森づくりの専門家の指導のもと生態学的混播混植法にて、5月に在来種の広葉樹30種240本と比較のため一般苗木300本の苗木を牧草地の河畔に沿って植え、苗木の計測まで生徒と実施しました。参加した中学校はSDGsをテーマとした総合学習として位置付けています。</p>	5-9月	40
					6月	3

	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア ・自団体 	子どもたちの森づくり		2019年「シマフクロウも人も喜ぶ地域づくり学習」の一環で町内小学生6年生と実施した河畔林再生地第1号地にて、ボランティアと協同で草刈りを実施しました。		
シマフクロウを通じた環境教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・散布小学校 ・浜中中学校 	環境教育事業		森づくりと連動した「人もシマフクロウも喜ぶ地域づくり学習」では、森・里・川・海のつながりの大切さについて、生息する生きものや一次産業との関係を絡めて学んでいます。 植樹や苗づくり等体験を通じて、持続可能な環境の担い手づくりを推進しました。森林を通じた地域の大人と子供の共同作業の場として学校の総合学習に貢献しています。	5月 10月	90
シマフクロウの保護・保全活動を支援する人材育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人総志会 宗像晴彦クリニック ・シニア自然大学校「地球環境講座」 ・中外製薬ウエルネットクラブ 	人材育成事業		シマフクロウの生態や保護活動、生息環境の保全や持続可能な一次産業に貢献する森づくりや環境教育事業等を紹介し、他地域の環境再生への応用を投げかけました。一般の方々に理解や関心を持っていただき、講演後のアンケートにて、絶滅危惧種シマフクロウへのルール・マナーの促進にも繋がったことが分かりました。	6-12月	240

	・自団体					
PR 事業	自団体	印刷物による広報			会報を作成し隔月ごと発行し、支援者の皆様に活動への理解関心を推進しました。	通年 500
ホームページ、各種印刷物等によるPR業	・茶内郵便局 ・自団体	地域住民向け広報			・浜中町茶内郵便局の企画で「新春シマフクロウパネル展」が1ヶ月間開催され、活動写真の提供を行いました。地域の子供から大人まで住民が当活動への理解や関心を深める機会になりました。	1月 200
//	・森里海を結ぶフォーラム 実行委員会 ・自団体	イベントによる広報	 		森から海までの自然の循環によるあらゆる生きとし生けるものたちの環境の再生に取り組む全国各地の団体等の連携・協働を深める、いのち育む時代へのキックオフ『第1回森里海を結ぶフォーラム』を長崎県諫早市にて3日間開催し、開催にあたり、実行委員会に参画し、「絶滅危惧種円卓会議」に登壇しました。後援に環境省、基調講演に環境事務次官や環境省参与、元NHKアナウンサー野中ともよ様等多数の方々より示唆に富む話題を提供いただきました。各地で森里海を結ぶ活動に取り組む団体等の活動発表や森里海の循環に向けた第2回植樹祭も行われ、現地の一次産業者も参加し、オンライン参加者の皆様方とも共有することが出来ました。	5-10月 現地フォーラム 500 オンライン講演会 500

				<p>コロナウィルスの影響のため開催が 4 月から10月に延期となり、その間オンラインにて全国の絶滅危惧種の代弁者が森里海のつながりの重要性について発表する講演会を毎月開催し関心の輪を全国に広げました。8 月は各地の高校生、9 月は当団体が発表を行いました。</p>		
//		メディアによる広報		<p>北海道新聞、釧路新聞、電子メディア等で当活動が紹介されました。『コープ未来の森づくり基金』の広報誌モリイク10月号では、シマフクロウ・エイドの森づくりを特集で紹介いただきました。</p>	5-10月	不特定多数
その他上記に付随する事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同会社 Piccoro ・ 株式会社三信商会 ・ 株式会社アトリエ・モリヒコ 	事業型連動寄付		<p>企業の皆様の事業活動とのコラボレーションにより、絶滅危惧種シマフクロウの保護活動推進に寄与する事業型連動寄付に3社参画いただき、社会貢献型商品として売り上げの一部をご寄付いただきました。</p>	4-12月	不特定多数
その他		表彰		<p>一般社団法人日本善行会より、日本善行表彰「自然と文化財愛護」の部門で受賞しました。</p>	12月	200

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

〒088-1366 北海道厚岸郡浜中町茶内橋北西 85 番地 TEL FAX : 0153-65-2183 Email : office@fishowlaid.jp Web : https://fishowlaid.jp/